

2010年度
日本学生オリエンテーリング選手権大会
ロング・ディスタンス競技部門
報告書



期 日 2010年11月21日（日）

場 所 奈良県宇陀市・桜井市

主 催 日本学生オリエンテーリング連盟

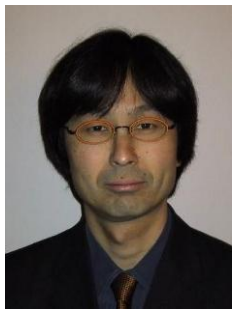
主 管 2010年度日本学生オリエンテーリング選手権大会実行委員会
大阪オリエンテーリングクラブ

後 援 宇陀市・宇陀市教育委員会・桜井市・桜井市教育委員会
奈良県・奈良県教育委員会

協 賛 株式会社エバニュー

協 力 大阪府オリエンテーリング協会・京都府オリエンテーリング協会・EMIT協会

ご挨拶



今大会に参加された皆さん、お疲れさまでした。ご存じのとおり、インカレロング男女選手権クラス及び併催のJ O A公認大会M21 E、M21 Aの計4クラスが不成立となってしまいました。当該クラスの参加者の方々、特に出走できなかった方々には無念の思いが禁じ得ないだろうことは、想像に難くありません。誠に申し訳ありませんでした。主催者を代表して、改めてお詫び申し上げます。

30年を超えるインカレの歴史の中で、選手権クラスが不成立となったのは初めてですが、過去には天候悪化のため一般クラスを中止したこともありました。自然の中で、さらには他人の土地を利用させていただいて行うスポーツである以上、運営スタッフの力の及ばぬところで中止せざるを得ないような事態はいつでも起こりうると考えるべきでしょう。だからといって、いい加減な準備・運営が許されるわけではもちろんありません。ですが、今回はそうではなく、大阪O L C及びインカレ実行委員会の総力を結集して周到に準備・運営されたものであったと言えます。最近の関西では少なくなった走行可能度のよい本格的な山のトレインでの開催、精度の高い地図、制約の多い中で考え抜かれた面白いコースセット、と三拍子揃った大会でした。参加者の皆さんも残念でしょうが、それ以上に運営スタッフ一同も悔しい思いで一杯なのではないかと思います。

今回の不成立は、改めて地元交渉の難しさを痛感させられるものでした。しかし、後ろばかりを振り向いても進歩はありません。今回の経験を生かして、今後のインカレで不測の事態が発生する確率を少しでも減らしていければと願ってやみません。

なお、男女選手権クラスの再レースを行うことになったと聞きました。再レースの是非については、いろいろと議論があったことでしょう。しかし、やると決めた以上は皆の力を合わせ、万難を排して、インカレと呼ぶに相応しいものにしようではありませんか。

最後になりましたが、ご支援ご協力いただいた地元関係者の皆様には感謝の意を表しますと共に、一部の地元関係者の方々にはご迷惑をおかけしてしまったことを改めて深くお詫び申し上げます。

日本学生オリエンテーリング連盟会長 河合 利幸

ご挨拶



2010年度のインカレロングが、終わりました。今年度のインカレロング選手権クラスは、インカレ史上初となる「不成立」という形で幕を閉じました。私も一選手として、非常に悔しく、残念に思っています。併設クラスが無事全て成立したのは不幸中の幸いですが、同じ気持ちには選手権出場者かどうかにかかわらず、参加者の全員が持っていることでしょう。運営者の方々に対して、非難をしたい気持ちがある方もいるかと思います。

私個人としては、そういう感情が出てきてしまうのは、仕方のないことだと思っています。年に2回しかないインカレが、しかも最も重要である選手権クラスが潰れてしまったわけなのですから。しかしそれ以上に、今回の大会に対する想いを、インカレに対する想いを、そこで終わらせて欲しくないと思います。

インカレには、およそ30年前の開始当初から、「学生主体」との理念があります。詳しくは先日の総会で各大学に配布した活動報告書の「日本学生オリエンテーリング連盟概説」を読んでいただきたいのですが、だからこそインカレのプログラムなどの「主催」のところに、「日本学生オリエンテーリング連盟」の文字があります。その上で、実行委員会の方々や、今回のように併催をお願いする場合は他団体の方に運営をこれまでお願いしてきているわけですが、今回を機に、インカレというこれほどの規模の大会の準備のために、今回問題となった渉外問題を始めとしてどれだけの多くの手間がかけているのかということを想像してみてください。そしてこれに対して、一学生として何ができるのか、何をすべきなのか、ということを考えてみてください。そうすれば自ずと、非難以外の感情も生まれてくることでしょう。ぜひその気持ちを、大切にしたいと思っています。

多少不謹慎なことかもしれませんが、私は今回の件を、インカレにおける学生の主体性や継続性、さらにはインカレ自体の存在意義を考える上での良い機会だと思っています。学生の皆さんは、切り替えて春インカレに向かう前に、ぜひ一度でいいので上記のようなことについて考えてみてください。それにより多くの人のインカレに対する価値観が変わり、想いもさらに大きくなると確信してやみません。その上で、春インカレに全力で向かい、今回の多くの人の無念を晴らせるくらい最高に春インカレを盛り上げてやりましょう！ 春にまた皆さんと岐阜の地で再開できることを、楽しみにしております。

最後になり恐縮ですが、本大会の開催にあたって尽力してくださった運営者の方々を始めとして、協力してくださった地元の皆さま、および大会を盛り上げてくださった全ての参加者の皆さまに、学生を代表して厚く御礼申し上げ、挨拶とさせていただきます。

日本学生オリエンテーリング連盟幹事長 齋藤 翔太

ご挨拶

このたびは、2010年度日本学生オリエンテーリング選手権大会ロングディスタンス競技部門に参加いただき、ありがとうございました。本大会では大会の要諦である男女の選手権クラスが競技不成立となり、大会に参加されたすべての皆様、とりわけ出走できなかった方々に対し、心から深くお詫び申し上げます。誠に申し訳ありませんでした。不成立に関しましては、別項目にて報告いたしますが、インカレの歴史始まって以来の事態に鑑み、非常に残念でなりません。

さて本大会テレインは、15年前に当クラブが20周年大会を開催した場所です。その後、テレイン南端を通過する県道が拡幅されて交通量が増大し、ランナーの横断ができなくなり、旧MAPの南半分をテレイン範囲から削除せざるを得ないかなり狭まったテレインとなりました。そのような中、ロングOのコースが組め、不成立の件を除いて大会が順調に進行したことは、急遽出動してくださった調査陣とコースプランナーの努力をはじめとする実行委員ひとりひとりのインカレに対する情熱の賜物といえます。

提言は別途まとめますものの、今後、地域クラブ・インカレがどのように発展していくのかわかりませんが、双方が本大会の経験が活かされることを切に望みたいと思います。

挨拶の締めくくりとして、共催の公認大会におけるM21Eクラスに参加されました小林知彦さんのすばらしい話を紹介したいと思います。競技中、怪我で動けなくなったランナーを発見した小林知彦さんが、競技を中断して救護所まで報告に来られ、怪我人のおられる場所まで大会役員を誘導、搬送のお手伝いをしてくださいました。全日本のエリート権の獲得がかかったこのクラスで、このように勇気ある行動をとられたことに感謝と敬意を表したいと思います。そしてこのような行動をとれる方が次期インカレ実行委員長であることについて、インカレの未来に明るい光明の一端をみれてうれしく思います。幸い怪我をされた方は、翌週のOL大会にも参加されたと伺っています。

大阪OLCとしましては、今後とも学生OL界の発展に寄与できたらと考えておりますので、引き続き厚誼を賜りますようお願い申し上げます。

実行委員長 野澤 建央

大会役員 (共催公認大会役員を含む)

実行委員長	野澤建央
副実行委員長	木村佳司
競技責任者	楠見耕介
運営責任者	沖浦徹二
コースプランナー	西村徳真・玉木圭介
イベントアドバイザー	大西康平
(大会コントローラ	石井博昭 (兵庫県OL協会))
本 部	野澤文夫・石原孝彦・川北悟士・山口尚宏・山川克則
受 付	五十嵐晶子・奥田裕子・岩水加代子・加藤高男・上松晋也
スタート	安孫子正義・五百倉大輔・五百倉務・中村貴史・久保忠幸・尾島良・坂本忠・山根祥延・田川雅美・中島真治
フィニッシュ・計算	阪本博・的場洋輔・山田知度・高橋大輔・大北洋平・小田紀彦・中原信一・大林俊彦・山本幸一
演 出	西村徳真・入谷健元・稲田元樹・山田めぐみ・谷口美貴・中清行・尾崎亮輔・谷義政・吉田賢忠・加賀美徳嗣・湯上久美子・入江早紀
式 典	矢野恵生
会 場	小西宏・若林宗平・小國英男・笠井泰自・小嶋裕・藤田寛・松尾憲二
救 護	陳慶祥・木村洋介・玉木圭介・田中紀十一・吉川貴章・笠原素子・楠見由里・(愛場庸雅)
報 道	上林弘敏

JOA公認（カテゴリーA）大阪OLC35周年大会および 2010年度日本学生オリエンテーリング選手権ロングディスタンス競技部門における 一部クラスの不成立について

このたびは、表記大会へのエントリー並びにご参加を賜り、誠にありがとうございました。しかしながら、インカレの男女選手権クラスならびに公認大会のM21E・M21Aの4クラスにおきまして、競技不成立となってしまう、大会に参加されていたすべての皆様に対し、心から深くお詫び申し上げます。誠に申しわけありませんでした。

ようやく大会当日の詳細な状況が判明し、また地元での解決も得られ、経緯をまとめることができましたので、下記のとおりご報告申し上げます。

今回の競技不成立は、大会当日の12:00～12:10に、スタート地区において地元山林所有者からの強力な競技中止要請抗議に対し、OL競技の地域社会への影響等を総合的に考慮し、苦渋の決断の末、やむなく12:10以降のスタートを中止したことによるものです。

申立人の抗議の内容は、

- 1 競技に使用されている山林は自分のものでないが、山林内を通行する本競技会の開催については反対であることを渉外段階から表明しており、それを無視して大会が開催されたこと。
- 2 山林の維持管理には、一般人が想像する以上の労力、費用、年月がかかっており、それが世間では理解されていないということ。

の以上2点がベースになっていました。

主催者としては、この大会に向けて並々ならぬ準備をしてきた参加者のために、何とか参加者全員をスタートさせ、競技を成立させて欲しいと強く主張しましたが、申立人には理解を得ることができませんでした。事前渉外に際しては、この申立人の所有地を立入禁止にし、ご迷惑をかけない旨を説明しました。また、立入禁止地区を明確にすべく、申立人の所有地境界について教えを請いましたが、個人情報のため、教えられないし、教えてもわからないとのことでした。そのため申立人の所有地を主催者側で調べ、その地域を立入禁止として地図上に表記し、申立人の所有地に入らないようにコースを設定して大会を開催しました。

大会翌日の22日、当該申立人からWEBサイト「森を走ろう」の管理者様のところに抗議のメールがあり、その連絡を受けた実行委員長が直ちに申立人に電話をし、謝罪にお伺いする旨をお伝えしましたが、来訪による謝罪は受け入れられず、顛末書の提出を3日間の期限をつけて求められましたので、「所有権限の有無に関係なく結果的に山林に入って、当該申立人の気分を害したことを謝罪するとともに、山林管理の難しさの啓蒙を広めること」をしたための書面を23日に速達で発送しました。翌24日電話で書面の到着確認と内容について説明を行い、謝罪を受け入れて頂きました。これをもって申立人との問題については、円満解決をみることとなりました。

また地元渉外問題の解決と並行して、随時JOAならびに日本学連へ報告をおこないました。その結果、全日本大会エリート権や学生選手権クラスに関する今後の対応については、それぞれの組織から対応を協議する旨のお返事をいただいておりますので、今後これらの団体からの公式発表をお待ちいただきたく謹んでお願い申し上げます。

大阪OLCといたしましては、二度とこのようなことが起きないよう、今回の件を教訓として、競技に、大会運営にと活動してまいる所存ですので、これまでどおりのご厚誼を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

平成22年12月2日

大阪OLC会長 兼 大会実行委員長 野澤 建央

選手権クラス結果

ME 不成立（事故による未出走あり）以下の記録は参考記録

順位	氏 名	所 属	登録年度	記 録
1	田邊 拓也	東北大学	3	1:23:24
2	結城 克哉	東京大学	2	1:23:47
3	太田 瑛佑	早稲田大学	3	1:24:49
4	矢野 貴裕	東京大学	4	1:25:57
5	斎藤 翔太	一橋大学	4	1:26:02
6	大木 孝	東京大学	4	1:26:57
7	堀田 遼	東京大学	2	1:27:02
8	矢内 剣	東京大学	4	1:32:15
9	宮本 佳記	京都大学	4	1:33:36
10	戸田 瑛	東北大学	4	1:33:37
11	伴 毅	京都大学	3	1:33:57
11	三森 創一朗	東北大学	4	1:33:57
13	中村 憲	東北大学	2	1:34:03
14	佐藤 悠太	東北大学	4	1:35:19
15	中井 智規	東北大学	3	1:35:43
16	岡本 将志	早稲田大学	4	1:36:16
17	池田 純也	一橋大学	2	1:36:44
18	小山 博之	新潟大学	3	1:38:32
19	松井 健哉	名古屋大学	4	1:38:34
20	寺田 啓介	京都大学	2	1:39:40
21	長谷 勉	一橋大学	3	1:39:48
22	沢 厚太郎	名古屋大学	4	1:40:38
23	石坂 翼樹	金沢大学	2	1:41:19
24	楠 恵輔	東京工業大学	3	1:43:31
25	辻 晃	金沢大学	3	1:44:01
26	内田 亘紀	名古屋大学	3	1:45:24
27	三谷 洋介	東京大学	2	1:46:02
28	渡邊 和樹	千葉大学	3	1:46:38
29	新見 健輔	東北大学	3	1:47:56
30	山本 哲也	静岡大学	4	1:48:02
31	小林 春樹	東北大学	3	1:48:41
32	市脇 翔平	京都大学	4	1:50:33
33	堀越 和宜	東京大学	3	1:50:37
34	田村 晃太郎	東京大学	2	1:51:51
35	北 翔太	金沢大学	2	1:52:15
36	中津留 聡士	京都大学	3	1:53:39
37	横井 智哉	慶應義塾大学	4	1:55:28
38	平野 弘幸	東北大学	1	1:56:22
39	浅利 直宏	名古屋大学	4	1:56:51
40	山本 剛史	東京工業大学	2	1:58:04
41	高田 翔午	金沢大学	2	2:05:07
42	関口 智大	東北大学	2	2:06:44
43	大月 隆寛	静岡大学	4	2:09:23
44	石井 亘	東北大学	2	2:11:10
45	小澤 宏紀	名古屋大学	4	2:16:09
46	西田 知弘	金沢大学	3	2:16:46
47	新城 大樹	東京工業大学	4	2:16:53
48	保川 一步	東京工業大学	3	2:17:39
49	小山 達之	駿河台大学	1	2:20:23
	池田 直人	名古屋大学	3	DISQ(2:32:51)
	金津 壮一郎	金沢大学	2	DISQ(2:42:34)
	菅谷 裕志	名古屋大学	3	DISQ
	石輪 健樹	東京大学	3	DISQ
	中野 雅之	東京大学	3	未出走 (事故)
	瀧本 拓央	名古屋大学	3	未出走 (事故)
	山上 大智	東京大学	4	未出走 (事故)
	大嶋 拓実	東京工業大学	3	未出走 (事故)
	立川 悠平	新潟大学	3	未出走 (事故)
	石黒 裕将	岩手大学	3	未出走 (事故)
	小林 遼	東京大学	4	未出走 (事故)

WE 不成立（事故による未出走あり）以下の記録は参考記録

順位	氏 名	所 属	登録年度	記 録
1	水野 日香里	椋山女学園大学	4	1:09:11
2	芦澤 咲子	相模女子大学	2	1:10:44
3	水野 綾子	東北大学	4	1:11:40
4	佐野 まどか	東北大学	3	1:16:20
5	新井 宏美	新潟大学	4	1:22:27
6	村松 瞳	東京農工大学	3	1:24:05
7	平方 遥子	東北大学	2	1:24:23
8	菊池 ひかる	宮城学院女子大学	3	1:25:30
9	津田 春菜	千葉大学	4	1:26:09
10	若山 亜美里	静岡大学	4	1:28:45
11	寺岡 倫子	獨協大学	4	1:29:27
12	本間 理紗	東北大学	4	1:30:53
13	大沼 由佳	東北大学	3	1:32:39
14	浅川 里佳子	実践女子大学	3	1:33:37
15	小玉 千晴	椋山女学園大学	3	1:33:55
16	江口 沙綾	岩手大学	3	1:36:28
17	太田 夏美	千葉大学	4	1:36:58
18	井上 舞	東京工業大学	3	1:37:01
19	高橋 美誉	岩手大学	1	1:37:17
20	田村 蓉子	東京工業大学	3	1:40:11
21	佐久間 風花	椋山女学園大学	4	1:44:26
22	南枝 美希	日本女子大学	3	1:48:48
23	永倉 由美子	立教大学	3	1:50:08
24	田代 祐香里	日本女子大学	4	1:55:49
25	小柳 優紀	実践女子大学	2	1:55:50
26	西谷 佳菜	京都女子大学	3	2:04:17
27	倉田 美知子	千葉大学	2	2:04:38
28	水野 志織	奈良女子大学	3	2:05:41
29	高嶋 智美	岩手県立大学	2	2:07:47
30	宮 恵美	宮城学院女子大学	2	2:12:08
31	成田 結花	日本女子大学	3	2:15:25
32	田嶋 允貴	奈良女子大学	2	2:29:46
	吉川 真由	椋山女学園大学	2	DISQ
	青木 佳世	東北大学	2	DISQ
	後藤 梨恵	椋山女学園大学	3	DISQ
	柴田 彩名	椋山女学園大学	4	未出走 (事故)
	勝田 あかぬ	東京農工大学	3	未出走 (事故)
	戸塚 菜月	名古屋大学	2	未出走 (事故)
	長田 知佳子	椋山女学園大学	3	未出走 (事故)
	高野 美春	十文字女子大学	4	未出走 (事故)

一般クラス結果

MUF 1

順位	氏 名	所 属	登録年度	記 録
1	菅野 敬雅	東北大学	1	0:30:46
2	関 淳	東北大学	1	0:36:00
3	辻本 誠	北海道大学	1	0:36:54
4	辻上 裕之	東北大学	1	0:37:53
5	山崎 純	東京医科大学	1	0:38:10
6	山田 晋太朗	東京工業大学	1	0:38:37
7	高橋 裕貴	新潟大学	1	0:38:39
8	堀 裕多	大阪大学	1	0:38:42
9	新谷 国隆	名古屋大学	1	0:39:24
10	小林 裕貴	東北大学	1	0:39:44
11	田力 明洋	東北大学	1	0:40:00
12	井上 敦	東北大学	1	0:41:02
13	坪井 嘉広	立命館大学	1	0:41:40
14	真保 陽一	東京大学	1	0:41:49
15	細川 知希	名古屋大学	1	0:42:37
16	牧野 達哉	東京大学	1	0:43:59
17	倉本 竜太	京都大学	1	0:44:19
18	石野 夏幹	東京大学	1	0:44:43
19	村上 力輝斗	東北大学	1	0:46:39
20	綱嶋 俊一	東北大学	1	0:46:58
21	守永 翔一	東北大学	1	0:47:08
22	長洲 卓	早稲田大学	1	0:47:38
23	吉江 一樹	千葉大学	1	0:47:57
24	根本 直人	千葉大学	1	0:48:10
25	新井 悠功	新潟大学	1	0:48:50
26	舟山 昂佑	岩手大学	1	0:49:08
27	山下 恵右	静岡大学	1	0:49:32
28	渡仲 祥太	名古屋大学	1	0:52:46
29	豊永 恭平	東京工業大学	1	0:53:24
30	玉井 崇之	東京農工大学	1	0:56:34
31	山田 好信	名古屋大学	1	0:56:37
32	藤橋 一輝	東京工業大学	1	0:57:40
32	六車 有貴	立命館大学	1	0:57:40
34	林 竜太郎	金沢大学	1	0:57:56
35	小石原 暉	東京大学	1	0:58:30
36	岩沢 翔平	早稲田大学	1	0:58:42
37	野川 裕一朗	大阪大学	1	0:59:56
38	佐々木勘一郎	新潟大学	1	1:00:11
39	袖村 巧	東北大学	1	1:00:23
40	新城 彬	新潟大学	1	1:01:53
41	杵田 士郎	大阪大学	1	1:02:13
42	田村 祐馬	東北大学	1	1:03:10
43	大北 浩也	京都大学	1	1:03:45
44	丸山 朋樹	新潟大学	1	1:04:08
45	石井 伸明	新潟大学	1	1:04:55
46	金 和也	金沢大学	1	1:05:00
47	児玉 悠貴	名古屋大学	1	1:07:19
48	寺嶋 暢朗	早稲田大学	1	1:08:13
49	坂口 祐生	大阪大学	1	1:09:03
50	伊藤 奎悟	京都大学	1	1:09:24
51	大沢 良太	静岡大学	1	1:17:00
52	山田 晃司	静岡大学	1	1:19:07
53	辻 雄介	立命館大学	1	1:19:18
54	坂井 笙	新潟大学	1	1:19:58
55	久保 有朋	新潟大学	1	1:20:05
56	藤原 吉高	一橋大学	1	1:21:51
57	南條 広記	東北大学	1	1:25:48
58	野中 良樹	名古屋大学	1	1:28:48
59	田中 伸悟	東京農工大学	1	1:30:16
60	伊波 俊	静岡大学	1	1:36:48
61	橋本 永一	早稲田大学	1	1:45:57
62	白波瀬 ゆう	立命館大学	1	1:46:55
	山内 司	岩手大学	1	DISQ(2:09:47)
	奥野 貴久	新潟大学	1	DISQ(2:10:22)
	小暮 尚貴	茨城大学	1	DISQ(3:03:10)
	水野 淳	東京工業大学	1	DISQ(3:17:20)
	石橋 潤	新潟大学	1	DISQ(3:34:41)
	中野 捷平	金沢大学	1	DISQ
	小山 健斗	北海道大学	1	DISQ
	川崎 隆大	金沢大学	1	DISQ
	潮田 兼一	東北大学	1	DNS

MUF 2

順位	氏 名	所 属	登録年度	記 録
1	近藤 康満	名古屋大学	1	0:35:47
2	高橋 亮	東北大学	1	0:38:11
3	佐目 裕之	東北大学	1	0:39:55
4	見藤 大典	東北大学	1	0:40:02
5	前田 悠作	名古屋大学	1	0:41:47
6	村越 怜	日本大学	1	0:42:04
7	細淵 晃平	一橋大学	1	0:43:24
8	境沢 勇人	東北大学	1	0:44:11
9	澁川 哲	東北大学	1	0:45:48
10	丹保 卓	金沢大学	1	0:47:01
11	福井 直樹	大阪大学	1	0:47:12
12	穂崎 康良	名古屋大学	1	0:48:36
13	鈴木 蒼	京都大学	1	0:49:04
14	高橋 亮太	東北大学	1	0:49:37
15	高棕 章太	大阪大学	1	0:50:20
16	中村 陽二	京都大学	1	0:50:46
17	山本 淳史	東京大学	1	0:51:15
18	徳田 光策	名古屋大学	1	0:51:53
19	福地 翔	東京工業大学	1	0:52:43
20	小倉 暢	京都大学	1	0:52:53
21	鈴木 志明	新潟大学	1	0:53:13
22	津高 剛	大阪大学	1	0:53:47
23	畑野 哲明	早稲田大学	1	0:55:42
24	小林 洋平	東北大学	1	0:56:52
25	田川 拓哉	北海道大学	1	0:57:00
26	堀江 悟	名古屋大学	1	0:58:02
27	増川 武志	東京農工大学	1	0:58:07
28	佐保井 大悟	東京農工大学	1	0:59:32
29	長坂 侑亮	東京工業大学	1	0:59:39
30	吉田 郁也	東北大学	1	1:00:55
31	阿部 一樹	東北大学	1	1:01:14
32	櫻井 博光	東京農工大学	1	1:01:47
33	木間 光	筑波大学	1	1:02:18
34	加野 良樹	新潟大学	1	1:02:51
35	北条 洋樹	静岡大学	1	1:02:54
36	新野 純平	東北大学	1	1:03:45
37	依田 健志	福島大学	1	1:04:38
38	丹羽 一輝	岩手大学	1	1:05:59
39	河野 瑛	立命館大学	1	1:06:32
40	橋本 英明	東北大学	1	1:06:52
41	出口 真行	名古屋大学	1	1:07:30
42	古賀 健太	京都大学	1	1:10:43
43	原田 裕大	岩手大学	1	1:10:58
44	石川 奨	静岡大学	1	1:13:34
45	新免 佑太	東京工業大学	1	1:14:27
46	藤本 章晃	岩手大学	1	1:14:28
47	田口 保成	名古屋大学	1	1:16:32
48	笠原 朋樹	関西大学	1	1:19:53
49	島澤 勇人	新潟大学	1	1:21:40
50	近藤 陽祐	新潟大学	1	1:23:04
51	鳥居 剛史	北海道大学	1	1:24:57
52	阿曾 貴大	福島大学	1	1:28:59
53	鈴木 良広	東京大学	1	1:34:18
54	田中 大貴	早稲田大学	1	1:37:10
55	市川 晋	東北大学	1	1:40:40
56	中村 浩之	新潟大学	1	1:41:57
57	馬場 崇史	東北大学	1	1:44:02
58	高橋 建輔	新潟大学	1	1:44:30
59	山内 貴仁	金沢大学	1	1:51:55
60	高橋 正如	東京農工大学	1	1:55:56
	後藤 成彦	名古屋大学	1	DISQ(2:06:37)
	工藤 直紀	名古屋大学	1	DISQ(2:07:28)
	藤澤 陸	横浜市立大学	1	DISQ(2:16:10)
	並木 佑弥	東京工業大学	1	DISQ(2:21:44)
	大西 健夫	名古屋大学	1	DISQ(2:39:29)
	前山 周	立命館大学	1	DISQ(3:10:59)
	篠原 詠士郎	新潟大学	1	DISQ
	板本 治樹	東京工業大学	1	DISQ
	宮林 周平	岩手大学	1	DISQ
	野村 龍生	新潟大学	1	DISQ
	敦賀 匡朗	岩手大学	1	DNS

MUL 1

順位	氏 名	所 属	登録年度	記 録
1	高橋 恒二	東北大学	2	0:50:45
2	福田 雄希	京都大学	3	0:51:06
3	岩崎 航	千葉大学	3	0:51:09
4	新見 哲也	早稲田大学	3	0:51:13
5	燧 曉彦	東京大学	2	0:51:37
6	松矢 將太郎	京都大学	4	0:51:51
7	古里 亮太	東京大学	2	0:52:03
8	宮崎 大地	東京工業大学	3	0:52:36
9	小野 敦央	東北大学	3	0:53:03
10	佐藤 広志	岩手大学	3	0:54:13
11	深澤 至貴	東北大学	3	0:56:26
12	高崎 晋太郎	東北大学	2	0:56:54
13	加賀谷 駿	千葉大学	3	0:57:54
14	西名 慧史	茨城大学	4	0:58:00
15	布木 純	東北大学	2	0:58:01
16	大村 拓磨	名古屋大学	2	0:59:34
17	嵯峨 駿佑	東北大学	2	0:59:47
18	中川 卓也	東北大学	2	1:01:35
19	小林 涼介	東京工業大学	2	1:02:03
20	久保田 翔	東京工業大学	3	1:02:34
21	佐藤 亮介	東北大学	2	1:04:04
22	木下 新一	早稲田大学	4	1:04:45
23	猪股 智	千葉大学	4	1:05:07
24	村中 茂仁	東京工業大学	2	1:06:02
25	山下 智弘	京都大学	3	1:06:11
26	坂牧 佑一	北海道大学	3	1:06:14
27	荒居 孝紀	名古屋大学	3	1:06:21
28	内山 将一	東北大学	2	1:07:07
29	中川 晃考	名古屋大学	2	1:07:15
30	小林 篤司	京都大学	4	1:08:43
31	高瀬 暁	北海道大学	4	1:08:47
32	酒井 将宏	東京工業大学	4	1:09:24
33	登倉 章仁	立命館大学	2	1:10:45
34	廣部 達哉	金沢大学	2	1:11:55
35	野口 英一	東北大学	2	1:13:08
36	古川 直樹	一橋大学	2	1:13:31
37	宇野 正信	名古屋大学	3	1:13:55
38	水野 佳本	新潟大学	2	1:14:07
39	鍋谷 泰紀	茨城大学	4	1:14:34
40	熊澤 慎介	名古屋大学	2	1:14:47
41	藤井 通太	東京工業大学	4	1:15:59
42	伊澤 裕紀	東北大学	3	1:18:34
43	水藤 拓人	京都大学	2	1:19:19
44	平田 慧	東京工業大学	2	1:19:51
45	猪野 基雄	岩手県立大学	2	1:21:22
46	相澤 洋輔	東京工業大学	2	1:21:44
47	和田 洋介	京都大学	2	1:22:00
48	菅原 圭生	福島大学	3	1:22:39
49	佐藤 雅俊	名古屋大学	2	1:22:49
50	矢澤 廉平	茨城大学	4	1:23:29
51	門脇 駿	立命館大学	3	1:23:33
52	南 翔	北海道大学	3	1:23:41
53	中川 慎太	名古屋大学	4	1:24:23
54	瀧澤 開	千葉大学	2	1:24:43
55	水野 陽介	東京農工大学	4	1:27:42
56	東條 真也	慶應義塾大学	4	1:28:32
57	三井 貴寛	金沢大学	2	1:29:03
58	近藤 準	茨城大学	4	1:30:25
59	片桐 拓登	筑波大学	2	1:31:29
60	金成 大樹	東北大学	2	1:31:57
61	三輪 幸寛	京都大学	2	1:32:03
62	四辻 明洋	大阪大学	3	1:32:50
63	石井 涼大	新潟大学	2	1:37:57
64	翁長 翔平	千葉大学	3	1:39:54
65	野村 祐樹	東北大学	3	1:41:48
66	伊藤 光平	東京農工大学	3	1:42:23
67	谷藤 将覧	岩手大学	2	1:45:50
68	端山 琢巳	東京工業大学	3	1:46:38
69	鳥山 聡志	静岡大学	3	1:53:07
70	川端 真彰	立命館大学	3	1:57:42
	加藤 航大	東京工業大学	3	DISQ(2:02:16)
	布施 匡也	名古屋大学	2	DISQ
	谷川 徹	東北大学	2	DISQ
	洲上 貴弘	東京大学	3	DNS

MUL 2

順位	氏 名	所 属	登録年度	記 録
1	岡本 耀平	京都大学	2	0:45:35
2	福西 佑紀	東京大学	3	0:47:20
3	杣 俊範	北海道大学	3	0:47:56
4	鳥居 正	千葉大学	3	0:49:49
5	吉富 哲志	名古屋大学	3	0:50:08
6	田村 直登	東北大学	2	0:50:28
7	千代澤 健右	早稲田大学	2	0:50:39
8	齋藤 遼一	東北大学	2	0:50:56
9	菅原 直也	東京工業大学	2	0:50:58
10	橋本 龍真	東北大学	3	0:52:38
11	松尾 遼	京都大学	2	0:53:14
12	谷口 寛彰	早稲田大学	3	0:53:57
13	三善 研吾	名古屋大学	2	0:55:57
14	大箱 貴志	京都大学	2	0:58:43
15	今野 智一	東北大学	3	0:58:44
16	郡 敏志	東京農工大学	3	0:58:57
17	横田 塁	岩手大学	3	0:59:12
18	白松 幸起	慶應義塾大学	3	0:59:25
19	福嶋 哲也	東北大学	2	0:59:47
20	渡辺 拓也	京都大学	3	1:00:40
21	丸山 拓	早稲田大学	2	1:01:57
22	中村 親治	立命館大学	4	1:02:14
23	多比羅 大	千葉大学	2	1:02:30
24	吉谷 浩平	東北大学	2	1:03:52
25	宇川 裕亮	東京大学	2	1:04:23
26	中島 基之	京都大学	3	1:05:11
27	岩本 拓巳	横浜市立大学	2	1:05:44
28	鶴瀬 和秀	名古屋大学	3	1:05:50
29	小室 隆之	横浜国立大学	3	1:06:16
30	岩瀬 亮	東京大学	4	1:06:36
31	鈴木 庸平	早稲田大学	3	1:06:40
32	幸原 朋広	大阪大学	4	1:06:58
33	今野 嵩久	岩手大学	2	1:07:17
34	今井 友之	新潟大学	2	1:07:30
35	藤田 純也	京都大学	4	1:08:47
36	中山 貴裕	東北大学	2	1:08:48
37	宮内 貴規	静岡大学	2	1:09:45
38	加藤 哲平	東京工業大学	3	1:10:56
39	黒田 勇人	慶應義塾大学	2	1:12:30
40	山田 宏	東北大学	2	1:13:07
41	阿部 龍太郎	東北大学	2	1:14:50
42	荒木 正登	名古屋大学	5	1:15:24
43	伊藤 展高	東北大学	2	1:15:51
44	琢磨 和晃	名古屋大学	4	1:17:09
45	小笠原 雄	京都大学	3	1:17:31
46	大津 勇輝	新潟大学	3	1:17:55
47	古積 拓見	東京農工大学	3	1:18:06
48	石川 和貴	立命館大学	4	1:18:36
49	鈴木 聖唯	東京工業大学	2	1:18:52
50	大坂 孝久	東北大学	4	1:20:04
51	飯田 恭胡	東京農工大学	4	1:20:05
52	日暮 一太	筑波大学	4	1:21:16
53	近常 直樹	名古屋大学	2	1:22:17
54	赤川 裕貴	東京農工大学	2	1:22:50
55	有浦 瑛人	東京工業大学	3	1:24:16
56	宇都宮 圭	京都大学	4	1:24:59
57	柏樹 彬広	北海道大学	2	1:25:39
58	佐々木 達哉	静岡大学	4	1:26:22
59	室辰 健一郎	東京農工大学	2	1:27:39
60	小橋 昌明	東京大学	4	1:27:53
61	重田 泰宏	北海道大学	2	1:30:47
62	銭 琨	東京大学	2	1:31:04
63	金曾 祐一	東京農工大学	3	1:34:30
64	高柳 陽介	静岡大学	3	1:49:04
65	都築 玄輝	静岡大学	2	1:59:27
	武田 章	立命館大学	3	DISQ(2:49:37)
	新美 宏樹	静岡大学	2	DISQ
	稲垣 和樹	東京農工大学	3	DISQ
	井上 瑞樹	東京農工大学	2	DISQ
	谷 祐樹	名古屋大学	3	DISQ
	加賀 俊介	岩手大学	2	DNS
	田村 晃太郎	東京大学	2	DNS
	山内 康久	名古屋大学	3	DNS
	横田 勇輝	金沢大学	3	DNS

MUS

順位	氏 名	所 属	登録年度	記 録
1	高島 拓也	金沢大学	3	0:24:27
2	高野 圭司	東京工業大学	4	0:29:22
3	佐藤 俊	早稲田大学	4	0:30:26
4	中島 正治	横浜市立大学	2	0:30:29
5	大木 雄太	早稲田大学	3	0:32:24
6	小池 俊樹	東北大学	2	0:35:06
7	奥 俊博	東北大学	2	0:36:33
8	南家 弘章	茨城大学	3	0:39:02
9	江坂 優	早稲田大学	2	0:40:17
10	大谷 達也	茨城大学	2	0:41:00
11	北原 昂	東京工業大学	4	0:41:03

WUF

順位	氏 名	所 属	登録年度	記 録
1	帖地 藍	金沢大学	1	0:24:27
2	沢田 慧	東北大学	1	0:27:32
3	鹿志村 美帆	東北大学	1	0:27:51
4	堀口 奈保	東北大学	1	0:29:13
5	横山 理恵	金沢大学	1	0:29:30
6	渡邊 彩香	東北大学	1	0:29:36
7	田中 千晶	お茶の水女子大学	1	0:30:37
8	池嶋 美佳	金沢大学	1	0:30:42
9	中村 聖美	東北大学	1	0:30:47
10	大塚 千尋	津田塾大学	1	0:31:34
11	關 明日香	岩手大学	1	0:32:46
12	藤ノ井 愛	帝塚山大学	1	0:33:04
13	小島 優	椋山女学園大学	1	0:33:47
14	松下 未来	東京農工大学	1	0:35:27
15	増山 友理子	津田塾大学	1	0:36:40
16	市之瀬 春佳	日本女子大学	1	0:38:39
17	大関 幸織	新潟大学	1	0:41:24
18	黒澤 彩	新潟大学	1	0:41:43
19	佐藤 友理	東北大学	1	0:43:07
20	坂井 あんず	京都大学	1	0:43:14
21	磯田 みつき	実践女子大学	1	0:44:01
22	三輪 琴実	奈良女子大学	1	0:45:16
23	樋口 みゆき	奈良女子大学	1	0:45:21
24	近藤 彩未	椋山女学園大学	1	0:46:38
25	大河内 恵美	横浜市立大学	1	0:46:49
26	加地 沙綾子	椋山女学園大学	1	0:47:11
27	斎藤 優紀	椋山女学園大学	1	0:48:28
28	内海 真弓	京都大学	1	0:48:40
29	鈴木 翠里	椋山女学園大学	1	0:49:36
30	井川 慧美	奈良女子大学	1	0:49:48
31	岩崎 彩香	相模女子大学	1	0:50:35
32	石原 亜沙子	椋山女学園大学	1	0:50:44
33	中井 みのり	京都女子大学	1	0:52:16
34	野田 明里	椋山女学園大学	1	0:52:49
35	筒井 緑生	椋山女学園大学	1	0:53:27
36	沼尻 愛美	福島大学	1	0:53:32
37	中村 由紀子	椋山女学園大学	1	0:54:00
38	田中 麻耶	東京農工大学	1	0:56:43
39	伊藤 礼乃	東京農工大学	1	0:57:27
40	魚住 詩織	椋山女学園大学	1	1:02:20
41	岩田 早智	椋山女学園大学	1	1:03:22
42	井川 実紅	奈良女子大学	1	1:13:11
43	秋吉 美里	津田塾大学	1	1:18:10
44	平井 可奈子	相模女子大学	1	1:29:20
45	宮田 理紗	実践女子大学	1	1:35:19
	舟橋 亜莉紗	椋山女学園大学	1	DISQ
	高橋 恵	新潟大学	1	DISQ
	岡田 侑菜	金沢大学	1	DNS
	児玉 みなと	京都大学	1	DNS
	松下 由磨子	静岡大学	1	DNS

WUL

順位	氏 名	所 属	登録年度	記 録
1	田村 佳菜子	岩手県立大学	2	0:37:29
2	小泉 佳織	津田塾大学	2	0:40:02
3	畠山 真紀	岩手大学	2	0:41:12
4	八柳 悠香	宮城学院女子大学	2	0:43:50
5	水原 真実	岩手大学	2	0:48:20
6	飯野 真理子	十文字女子大学	4	0:48:22
7	桜木 美咲	椋山女学園大学	4	0:48:42
8	村上 知帆	東京農工大学	2	0:49:52
9	久米 美里	椋山女学園大学	2	0:51:59
10	井村 一乃	椋山女学園大学	2	0:52:11
11	渡邊 文子	実践女子大学	3	0:52:29
12	幸谷 奈津美	宮城学院女子大学	2	0:53:28
13	近藤 つかさ	椋山女学園大学	3	0:53:49
14	井戸川 祥子	日本女子大学	3	0:54:05
15	大鷲 良実	岩手大学	2	0:54:17
16	篠原 舞	椋山女学園大学	4	0:55:30
17	林 美樹	十文字女子大学	3	0:55:48
18	大谷 美紀	椋山女学園大学	3	0:57:02
19	立田 美雪	椋山女学園大学	4	0:57:26
20	春名 敦子	お茶の水女子大学	3	0:58:01
21	高橋 愛衣	金沢大学	4	0:59:06
22	井戸 美菜	実践女子大学	4	0:59:12
23	角谷 美南	椋山女学園大学	3	1:01:36
24	大村 理恵	椋山女学園大学	3	1:02:15
25	木村 友香	京都女子大学	3	1:02:21
26	森 友里恵	椋山女学園大学	4	1:02:58
27	村上 梨枝	実践女子大学	4	1:03:08
28	伊東 里紗	椋山女学園大学	2	1:06:22
29	森 友紀	椋山女学園大学	3	1:07:12
30	塚本 美咲	椋山女学園大学	3	1:07:58
31	古川 真由	椋山女学園大学	2	1:08:04
32	伊藤 奈巳	椋山女学園大学	2	1:08:36
33	加藤 美沙央	椋山女学園大学	3	1:10:36
34	中村 あすか	京都女子大学	3	1:11:40
35	望月 彩葉	東京農工大学	2	1:12:40
36	内山 美弥	日本女子大学	3	1:13:18
37	西山 和沙	椋山女学園大学	3	1:19:33
38	谷本 委代	津田塾大学	4	1:20:46
39	篠原 也美	実践女子大学	2	1:44:40
40	木村 雅美	椋山女学園大学	4	1:53:51
	柿沼 里奈	東京家政大学	3	DISQ(2:03:48)
	石川 実起	奈良女子大学	2	DISQ(2:22:05)
	岩田 瑞季	京都女子大学	3	DISQ
	森崎 智子	椋山女学園大学	2	DISQ
	城間 友子	岩手大学	2	DNS
	伊藤 愛子	椋山女学園大学	2	DNS
	伊藤 恵梨	椋山女学園大学	3	DNS

WUS

順位	氏 名	所 属	登録年度	記 録
1	田口 翠	東北大学	2	1:08:38
2	齋藤 紀子	茨城大学	2	1:19:21
3	上山 祐佳里	宮城学院女子大学	2	1:34:38
	栃木 奈央子	十文字女子大学	2	DNS

男子選手権クラス スタートリスト

No.	スタート	氏 名	所 属	登録年度
101	10:17	大木 孝	東京大学	4
102	10:19	伴 毅	京都大学	3
103	10:21	佐藤 悠太	東北大学	4
104	10:23	寺田 啓介	京都大学	2
105	10:25	西田 知弘	金沢大学	3
106	10:27	小山 達之	駿河台大学	1
107	10:29	高田 翔午	金沢大学	2
108	10:31	小山 博之	新潟大学	3
109	10:33	中井 智規	東北大学	3
110	10:35	保川 一步	東京工業大学	3
111	10:37	田邊 拓也	東北大学	3
112	10:39	辻 晃	金沢大学	3
113	10:41	長谷 勉	一橋大学	3
114	10:43	堀田 遼	東京大学	2
115	10:45	太田 瑛佑	早稲田大学	3
116	10:47	中津留 聡士	京都大学	3
117	10:49	羽野 嵩志	一橋大学	3
118	10:51	横井 智哉	慶應義塾大学	4
119	10:53	菅谷 裕志	名古屋大学	3
120	10:55	三森 創一朗	東北大学	4
121	10:57	小澤 宏紀	名古屋大学	4
122	10:59	小林 春樹	東北大学	3
123	11:01	浅利 直宏	名古屋大学	4
124	11:03	新見 健輔	東北大学	3
125	11:05	池田 直人	名古屋大学	3
126	11:07	市脇 翔平	京都大学	4
127	11:09	中村 憲	東北大学	2
128	11:11	矢内 剣	東京大学	4
129	11:13	楠 恵輔	東京工業大学	3
130	11:15	矢野 貴裕	東京大学	4
131	11:17	大月 隆寛	静岡大学	4
132	11:19	結城 克哉	東京大学	2
133	11:21	山本 剛史	東京工業大学	2
134	11:23	平野 弘幸	東北大学	1
135	11:25	石輪 健樹	東京大学	3
136	11:27	山本 哲也	静岡大学	4
137	11:29	堀越 和宜	東京大学	3
138	11:31	北 翔太	金沢大学	2
139	11:33	戸田 瑛	東北大学	4
140	11:35	金津 壮一郎	金沢大学	2
141	11:37	関口 智大	東北大学	2
142	11:39	石坂 翼樹	金沢大学	2
143	11:41	石井 亘	東北大学	2
144	11:43	沢 厚太郎	名古屋大学	4
145	11:45	宮本 佳記	京都大学	4
146	11:47	三谷 洋介	東京大学	2
147	11:49	渡邊 和樹	千葉大学	3
148	11:51	松井 健哉	名古屋大学	4
149	11:53	池田 純也	一橋大学	2
150	11:55	新城 大樹	東京工業大学	4
151	11:57	斎藤 翔太	一橋大学	4
152	11:59	岡本 将志	早稲田大学	4
153	12:01	内田 亘紀	名古屋大学	3
154	12:03	中野 雅之	東京大学	3
155	12:05	瀧本 拓央	名古屋大学	3
156	12:07	山上 大智	東京大学	4
157	12:09	大嶋 拓実	東京工業大学	3
158	12:11	立川 悠平	新潟大学	3
159	12:13	石黒 裕将	岩手大学	3
160	12:15	小林 遼	東京大学	4

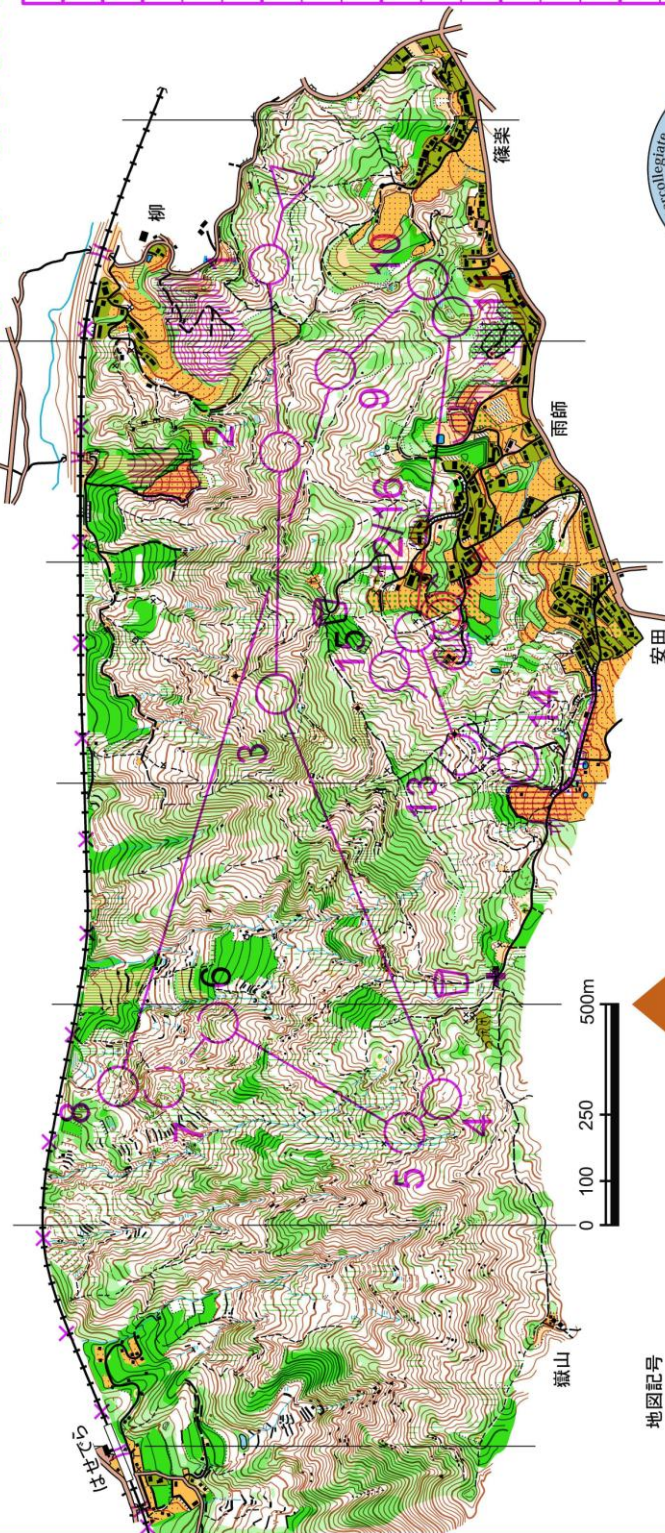
女子選手権クラス スタートリスト

No.	スタート	氏 名	所 属	登録年度
201	10:56	小柳 優紀	実践女子大学	2
202	10:58	吉川 真由	椋山女学園大学	2
203	11:00	若山 亜美里	静岡大学	4
204	11:02	水野 志織	奈良女子大学	3
205	11:04	井上 舞	東京工業大学	3
206	11:06	高嶋 智美	岩手県立大学	2
207	11:08	倉田 美知子	千葉大学	2
208	11:10	本間 理紗	東北大学	4
209	11:12	宮 恵美	宮城学院女子大学	2
210	11:14	成田 結花	日本女子大学	3
211	11:16	太田 夏美	千葉大学	4
212	11:18	小玉 千晴	椋山女学園大学	3
213	11:20	高橋 美誉	岩手大学	1
214	11:22	佐久間 風花	椋山女学園大学	4
215	11:24	寺岡 倫子	獨協大学	4
216	11:26	西谷 佳菜	京都女子大学	3
217	11:28	南枝 美希	日本女子大学	3
218	11:30	津田 春菜	千葉大学	4
219	11:32	大沼 由佳	東北大学	3
220	11:34	浅川 里佳子	実践女子大学	3
221	11:36	青木 佳世	東北大学	2
222	11:38	江口 沙綾	岩手大学	3
223	11:40	水野 綾子	東北大学	4
224	11:42	水野 日香里	椋山女学園大学	4
225	11:44	田嶋 允貴	奈良女子大学	2
226	11:46	平方 遥子	東北大学	2
227	11:48	田代 祐香里	日本女子大学	4
228	11:50	新井 宏美	新潟大学	4
229	11:52	佐野 まどか	東北大学	3
230	11:54	菊池 ひかる	宮城学院女子大学	3
231	11:56	村松 瞳	東京農工大学	3
232	11:58	田村 蓉子	東京工業大学	3
233	12:00	永倉 由美子	立教大学	3
234	12:02	後藤 梨恵	椋山女学園大学	3
235	12:04	芦澤 咲子	相模女子大学	2
236	12:06	柴田 彩名	椋山女学園大学	4
237	12:08	勝田 あかね	東京農工大学	3
238	12:10	戸塚 菜月	名古屋大学	2
239	12:12	長田 知佳子	椋山女学園大学	3
240	12:14	高野 美春	十文字女子大学	4

獄山

奈良県宇陀市榛原区・桜井市
縮尺 1:15,000 等高線間隔 5m

平成22(2010)年11月21日(日)
2010年度日本学生オリエンテーリング選手権大会
ロングディスタンス競技部門 兼
大阪オリエンテーリングクラブ35周年記念大会



地図記号

- × 小さなほこら・狩猟用具
- ビニルハウス
- きのこ栽培地

他の記号は、JSOM2007に従う

緊急連絡先：(のざわ)

||||| 立ち入り禁止

×× 横断禁止

|| 横断地点

We Offer Innovations
EVERNEW®



大阪オリエンテーリングクラブ

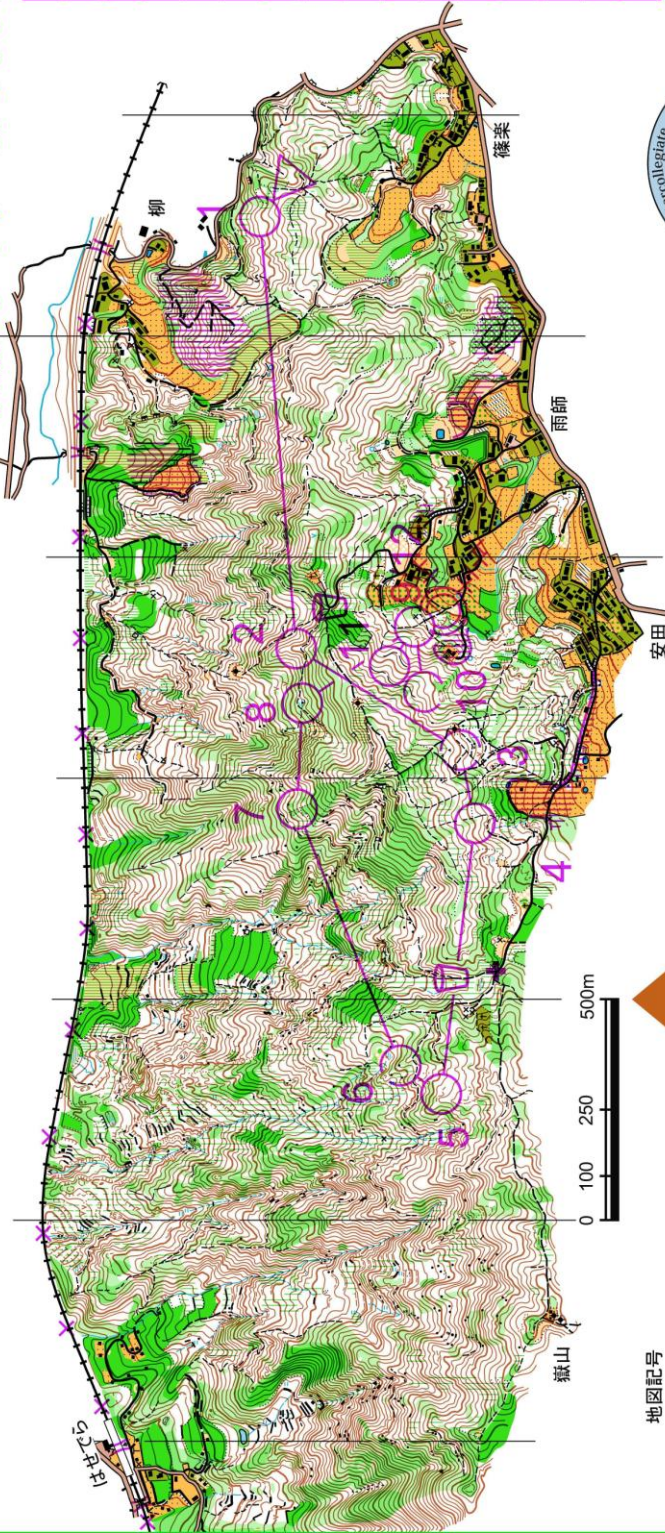
調査原図 桜井市地形図 桜井市森林基本図 宇陀市榛原区図
参考図 大阪OLC「長者屋敷越」(1995)
GPSによる位置取得 2009年2月～2010年2月
安孫子正義 五百倉大輔 五百倉 務 石原 孝彦 沖浦 徹二 小西 宏
坂本 忠 坂本 博 中野 茂暢 野澤 建央 野澤 文夫 藤田 寛 山田 知度
1次調査 2010年3月～10月 玉木 圭介 西村 徳真 松本 康浩 三上 雅克
Robert Plowright 楠見 耕介
2次調査 2010年9月～10月 中村 弘太郎
3次調査 2010年10月～11月 山川 克則
作図
Robert Plowright 楠見 耕介 坂本 忠 玉木 圭介 西村 徳真 松本 康浩
三上 雅克 中村 弘太郎 山川 克則 OCAD10(2514)



ME			6,8 km	560 m
△	3			
1 47		ハ		
2 73		ハ		
3 85		ハ		
4 136		ハ	1.5	Q
5 137		ハ	2.5 / 1.0	Q
6 127		ハ		Q
7 126		ハ		Q
8 121		ハ		Q
9 51		ハ		Q
10 54		ハ	2.0	Q
11 52		ハ		Q
12 101		ハ		Q
13 120		ハ		Q
14 112		ハ	1.0	Q
15 91		ハ		Q
16 101		ハ		Q

奈良県宇陀市榛原区・桜井市
縮尺 1:15,000 等高線間隔 5m

平成22(2010)年11月21日(日)
2010年度日本学生オリエンテーリング選手権大会
ロングディスタンス競技部門 兼
大阪オリエンテーリングクラブ35周年記念大会



地図記号

- × 小さなほころ・狩猟用罠
- ビニルハウス
- きのごま埋地

他の記号は、JSOM2007に従う

緊急連絡先：(のぞわ)

||||| 立ち入り禁止

×× 横断禁止

|| 横断地点

We Offer Innovations
EVERNEW®

調査原図 桜井市地形図 桜井市森林基本図 宇陀市榛原区図
参考図 大阪OLC「長者屋敷越」(1995)
GPSによる位置取得 2009年2月～2010年2月
安孫子正義 五百倉大輔 五百倉務 石原孝彦 沖浦徹二 小西宏
坂本忠 坂本博 中野茂暢 野澤建央 野澤文夫 藤田寛 山田知度
1次調査 2010年3月～10月 玉木圭介 西村徳真 松本康浩 三上雅克
Robert Plowright 楠見耕介
2次調査 2010年9月～10月 中村弘太郎
3次調査 2010年10月～11月 山川克則
作図 Robert Plowright 楠見耕介 坂本忠 玉木圭介 西村徳真 松本康浩
三上雅克 中村弘太郎 山川克則 OCAD10(2514)



大阪オリエンテーリングクラブ
NIPPON TRAVEL AGENCY

WE			
4	4,0 km	300 m	
△			
1 46	ハ		
2 87	ハ		
3 120	ハ		
4 110	ハ		
5 136	ハ		⚡
6 128	ハ		
7 113	↑		1
8 106	▲	1.0	Q
9 101	ハ		く
10 95	ハ		
11 91	ハ		
12 101	ハ		く
		80 m	⊙

コースプランナー報告

西村 徳真

インカレの選手権クラスのコースを中心に組ませて頂きました。運営上の報告については玉木殿の報告に詳しいため、私からは、ME、WEのコース解説を中心に報告をさせていただきます。

正直に感想を申し上げますと、今回のコースセットには非常に苦しまられました。なぜなら、トレインの大半が非常に急峻であり、かつ足元が悪いエリアが多く、コースセットの自由度がかなり制約されていたためです。実際、第2回目の試走までで誰一人として完走出来ないコースを組んでしまいました。3回目の試走でようやくまとめた時間の完走者を出しましたが、それでもまだ長く、結局最終的に入稿したコースを走った運営者は一人も居ないまま本番を迎えてしまいました。

そんな中でも、暫定で上位に食い込んだ選手のタイムは優勝設定時間から大きくずれませんでした。何度も試走の機会と協力を頂いた野澤殿をはじめとした大阪OLCの皆様方、最後の最後まで地図修正とコントロール位置のチェックを進めて頂いた山川殿、拙いコース案に様々な意見を頂き、コースデータの最終調整に勤しんで頂きました楠見殿、玉木殿、大西殿のおかげです。本当にありがとうございました。

それでは、それぞれのコースについての解説に移ります。

【ME】

一番の勝負レッグは8→9を想定しています。

その長さからルートを決断するまでに時間がかかる上、登り基調のレッグとしたことで、ルートミスとハートの弱さが直接タイムに響く点が特徴です。正直なところを言うとプランナーとしてもベストルートははっきりと決めていません。8番に至るまで山を走った感触を基に、いかに遅くならないルートを選択し、根性を持ち続けられるかが大きな鍵となるレッグです。

その次の勝負レッグは3→4です。大きくコンタリングの6番道を使うか、素直に頂上まで登ってしまうかの2通りがあり、脱出とアタックでも細かなルートチョイスが存在します。プランナーとしては、素直に頂上に登ることが速いと考えていますが、ここも8→9同様、どのルートを進むかを決断することが重要です。

他に特筆すべきは5→6です。4番から一転して下り基調のレッグが続き、スピードとの技術のバランスが一気に難しくなる中でのミドルレッグです。アタックは難しくないので、いかに途中のナビゲーションを単純化し、コントロールへアプローチ出来るかどうかで走れるスピードに大きな差が出てきます。4番から8番まではミドルディスタンス競技のような、気の抜けないナビゲーション力を問う区間になっています。

【WE】

全体的に、安全性を重視したコースになっています。主稜線を中心としているうえ、多くのレッグで、遠回りの道走りが選択可能となっています。

そんな中でも勝負レッグといえるのは6→7です。ルートチョイスこそないものの、簡単なルートに逃げる事が出来ません。不明瞭な6番道を見付け、かつ現在地の把握に神経を使う必要があり、正確なナビゲーション能力が問われるレッグです。

また、1→2も勝負所でしょう。まだ緊張が解けきれていないであろう序盤でのロングレッグです。レッグの中盤で主稜線に登り切り、給水所を通過してアタックというルートが一番速いと思われますが、逃げ道として大きく南から道回りをするルートも考えられます。しかし、最速のルートでも決して難しくはなく、脱出さえ成功すれば、シンプルに稜線を目指すことで簡単にコントロールにアプローチすることが出来ます。

ME、WEともに存在する最終コントロールからのループは、正直なことを言うとコースプランをする上での苦肉の策という面が大きいのですが、それでも気が抜けないレッグが続き、最後の集中力が試される区間になっています。

Lap Centerに掲載されているレッグ分析の結果を見ると、勝負レッグとして紹介したレッグの難易度が概ね高く、プランナーの意図はひとまず成功しているかと思っています。

最後に。今回MEの8→9のように、プランナー自身もベストルートが分からないようなレッグを積極的に組んでいます。コースを組むとよく「ベストはどれを想定されていますか？」という質問をよくもらい、私も私なりの意見を答えるのですが、本来ベストルートを決めるのは競技者自身です。幾多の選手が全力で選り抜き、走り抜いたルートが地図上に彩られ、それによって初めてベストルートらしきものが浮かび上がってきます。プランナーはあくまでそのためのキャンバスを用意するにすぎません。

これからもインカレという最高の舞台で、皆さんの手で素晴らしいルートを地図上に描いていってください。学生の皆さんのこれからの活躍を心から願っています。

コースプランナー報告

玉木 圭介

経緯：そもそも私は最初からのコースプランナーでなく、クラブ内諸事情により（やむなく）9月前後よりその責務を負った（引き継いだ）ものであり、それ以前の事情・そういう体制の可否についてはコメントできる立場にない。また、私が引き継いだ段階において、インカレについてのコースプランナーは西村君がすでにおり、私の立場はインカレについては彼の補佐、彼の職掌外たる公認大会についてのコースプランナーが私のメインジョブ、とのことであった。

体制：問題点はいくつかあったが、1つだけあげると、試走がこれほど貧弱な大会はなかったのではないかな。インカレエリートに付いてだけは何とか試走出来ていたが、それ以外で、最終まである程度反映したコースで試走されたものはW21E・MUL・N程度だけである。試走会は当初7月・10月に予定され、行われたが、地図が10月試走でも不完全、コースプランは10月試走以後にようやく本格化、という状況であった。10月末に臨時（少数精鋭）試走会を行い、その後もかなりコースをいじる、という状況であった。あえて言う、クラブの体制として試走会を含む全体スケジュールは問題のない日程で相当早く立てられ、その通り消化し（てしまっ）たが、肝心の地図・コースの充実がそれに追いつかず、その遅れを踏まえた対応がその状況に輪をかけて追いついていなかった（引き継ぎがあった状況・それに伴う状況把握の遅れ・引き継ぎ者（私）の無用な遠慮等が大きく影響している）、というところに問題があった。

結果：不幸にして不成立だったクラスの最終推測結果も含めると、かなりのクラスで想定内のウィニングタイムに収まった。特にインカレ選手権はトレインの制約にかかわらず、いい出来だったのではないかな。しかし、M21A・M35A・M40Aはやや長かったし、MUL・MUF・WUFはやや短かった。男子高齢クラスも若干短かった。

と言いつつ先掲の問題クラスのプランナーたる私はさほどその点では失敗とは思っていない。優勝想定時間が外れるとしたらどういうクラスがどっちへどのくらい外れてもいいかな、という運営上、参加者マインド上の許容範囲は外れなかったと考えているからである。

ただ、あえていうならM35AはW21Eに近い回しにした方が良かったか、MULはもう1～2コントロールのばしたら、MUFは給水まで延ばしてもよかったか、WUFはもう1ランク上のコースにしても良かったか、と反省している。

課題：結果的にスケジュール上もやむなくインカレエリートコースプランの大詰めと、公認大会の数多くのコースプランの締め切りが相当短期間に重なった（実質5日間だったっけ?）。これを1人のプランナーがやったとしたら相当無理があった（正直あの日程では不可能であったのではないかな）と思うが、2人で同時並行であったので、なんとかこなせたような気がする。が、何せ脳みそが2つなので、最終的なコントロールの整理・統合に無駄が出たように思っている。75コントロールあったが、もう少し時間と脳みそに余裕があれば68～70程度に出来たんちゃうかいな、と思っている。

先にもふれたが、地図の出来上りが遅く、特に1次すら挙げてないところが地図中の真ん中にある、という状況がかなり遅くまで残り、コースプランにかなり障害となった。また1次では「その辺は通れないで」との表記が10月の最終段階で「いやいや通れるで」との表記に変わり、「もっと早く知っていたらその辺の回し方が根本的に変わっていたのに…」と後悔したところもあった。

提言：公認大会のように多くのコースを必要とする場合と、インカレのように多くのコースはいらないが特に選手権において特別な配慮を必要とする場合と、コースプラン・地図作成・試走体制・ひいては運営体制と、相当構えの違いが要求される。我々クラブとしてはその辺はちょっと想定外であり、見通しに甘さがあり、反省点であると思っている。端的に言えば、インカレE（と公認Eも）だけ別扱いにしてコース・地図・スタート位は全く別カテゴリー・独立扱いにした方が動き易かったかとも考える。Almost All New Map であった今回については特にそう思う。

しかし、公認大会（カテゴリーAにしても）において、実にあれほどのコース数を必要とするのか？そもそも1クラスは10人程度で成立させるのでいいのかな？個人的感覚では1クラスというからには少なくとも20人程度で競り合いたいように思うのだが、この感覚は間違っているのだろうか？現行ではウィニングが実に細かく分かれているためおいそれとコース共有できないのだがクラス統合がもっと気楽にできる空気があればその辺改善できそうに思う。

イベントアドバイザー報告

イベントアドバイザー 大西 康平

・はじめに

今回のインカレは非常に残念な結果になってしまいました。イベントアドバイザーとして大阪OLCの皆さんや関西のOB・OGと共に運営してきましたが、その結果がこんなことになるとは予想していませんでした。2月には再レースが決まり、今はまた忙しくなりつつある中この報告書を書いています。僕の中ではまだ全部終わっていないのに報告書というのは変な感じですが、大会報告をイベントアドバイザーの視点から書きたいと思います。

・準備

9月初めから運営に加わりました。ずっとアドバイザー選びが難航しており、8月末に要請を受けて引き受けることにしました。アドバイスやコントロールするにはぎりぎりの時期だったと思います。要項に関しては要項1は問題なく発行されていましたが、要項2や要項3【プログラム】は規則よりも遅れてしまいました。最近のインカレでは守られていないことの方が多くなっていますが、これも最近のインカレの危機的状況を意味しているのではないのでしょうか？技術委員会がアドバイザーを派遣しようとしてもなかなか手を挙げてアドバイスをする人がおらず結果としてアドバイザーがいなままずっとアドバイザーの決定を遅らせ、その結果要項段階で未定となっています。このアドバイザーの決め方をどうするかもっと良い方法を考えていかなければいけないのではないかと思います。今回は大阪OLC35周年大会と併催ということで公認大会側にもコントローラの方がおられたので、インカレの特に選手権をコントロールすることに集中しました。

・競技面

9月の初めの時点で今回のインカレも準備が順調に進んでいるとは言えませんでした。地図調査はプロマッパーのRobの離脱という穴を埋めるため多くの方の負担が大きくなっていたり、地図ができていないことが試走やコース決定を遅らせる結果となっていました。9月末に地図がある程度の形になり、10月に試走を2回行いました。玉木さんをはじめとする運営者の方々の最後の踏ん張りによりインカレのコースが無事完成しました。ウイニングタイム等も当日の選手の成績を見ると妥当な数字になっていました。インカレに十分ふさわしいコースで問題なかったと考えています。

・運営面

学生OB・OGと大阪OLCとの協力して運営する形ではありましたが、主に大阪OLCさんの大会であるため学生OB・OGの関わり方が不明確というかどういった関わりを持てばいいのかあやふやな所が多かったように思います。特に学生を束ねる役目の人が途中まで明確でなく、人事といった役職は重要で、必ず「この人はこのパートを受け持ってもらおう。」ということを示していくことがこれから先のインカレでも必須となってくると思います。その人事を仕切る人を決めたのも時期的に非常に遅くドタバタしてしまいました。また仕方ないことではありますが、重要な役職の方が日常の業務などで忙しく交代したり、フェードアウトしたり、と運営が混乱し予定していたことが一部で

きなくなってしまう結果となりました。それぞれの人の余裕と能力をあらかじめ考えての人も必要であつたのではないかと思います。

・演出面

インカレの方をコントロールするのにこの点が一番最近のインカレでは重要視されているのではないかと考えていました。しかしながら、今回は会場またテレビの範囲の制約上どうしても会場をゴールとすることはできずネット回線を通じての中継による演出となりました。そのおかげか今までにないような演出方法がアイデアとしてたくさん出てきました。今回出たアイデアというのは今後シェアしていくとより素晴らしい演出の形が出来上がるのではないかと思います。実際は、予定していた演出よりも回線の乱れなどによりスカイプが切れたり音声途切れたりややはり山の中との中継は難しいという結果となりましたが、中間のタイムが選手の画像などと同時に映し出されるのは見ている人も楽しめる演出だったと感じました。しかし、演出において中間となる場所に2人ずつ配置しないといけなかったのもそれだけでもかなりの人数を演出に割かなければいかずこういった人的リソースを省力化していくこともこれからの課題になっていくと思います。

・会計面

本来会計はアドバイザーが監査するものなのですが、今回は大阪OLCの大会に併催ということなので会計には関係していません。しかしながら、規約の会計上の問題点を一つ指摘すると今回の大会では奈良での開催にもかかわらず神奈川からアドバイザーとしてコントロールをしに試走などにも参加してきましたが、学連の規約では大会の主管がすべて費用を負担すると書かれてあるのですが、この規約は非常に不親切であると感じました。学連側としては併催してもらっている立場でかつアドバイザーを最終的に決めているのは理事会です。しかし、遠方からになっても交通費の負担は大阪OLCの方という構図は矛盾しています。学連の規模と一社会人クラブの規模を考えれば結論は出ると思います。この規約の改正についてももう一度議論して欲しいと思います。実際に、交通費のことも考え現地での試走等の重要な時を除いては(会議だけなどの日は)参加していませんでした。

・インカレの今後について

最後に、今回アドバイザーをさせていただいて不成立はあったもののそれがなくてもインカレのこれからの開催については毎年徐々に開催への危険度が増していつに感じました。2月に行われる選手権の再レースでは半分は学生を中心とした運営者で行われるので、新しいインカレ運営の形と運営についてより早く現役生も今のインカレの状況について考えるいい機会になっているのではないかと思います。

現役学生みんなは2月、3月のインカレに向けてさらなる努力を頑張ってください。運営をされた方々本当にお疲れ様でした。またインカレを運営する機会があればよろしくお願いします。

提言とその他もろもろ報告

実行委員長 野澤 建央

1 今回のような不成立を防ぐには？

今回不成立となった地元の方との価値観の違いの克服の方向性について考えて見ましょう。実行委員会では、今回の不成立を受け11月28日(日)、反省会を緊急招集しました。その中で調査者でもあり、主として公認大会のコースプランナーを務め、また職業自身も森林関係に従事されている玉木氏から下記のような意見が寄せられました。今後の取り組みの一端になると思われますので、引用掲載をいたします。

+++++
玉木です。

今回に限らず、今後も起こり得、というか今後、ますます起こりうる今回の如きトラブルの根源として。

Q：そもそもオリエンテーリングはその地の森林・森林所有者に何をもたらしてきたか？

A：ほとんど何も。レアケースとして地元観光業と運命共同体の場合のみ、かつ宿泊を伴う大規模大会の開催時のみ、間接的恩恵があったであろう。(E X. 日光・駒ヶ根インカレ、岡山白石島全日本リレー等)。直接的には軽微な踏み荒らし等の被害はあれど、メリットは寡聞にして知らず。ほとんどすべての場合、地元森林所有者にとって私たちオリエンティアの立場は、「都会から来て、なにやら山でモノ好きに遊んでる不特定多数(いや少数?)の得体の知れない奴ら。まあ、火遊びして火事出すような大きな害はなさそうだからあえて怒らんけど…うちも山にさほど執着ないし…」と言うところでしょうか。オリエンティアはそれをどう感じ、またどう感じなければならぬか。

Q：今の我々のオリエンテーリング(的活動(とあえて書きます))はその地の森林・森林所有者に何をもたらし得るか？

A：実は、(最近気づいたのですが、)われわれのGPS調査は、その無償の労力の結果のデータの価値において、それを地元に対する貢献としてしかるべき互換性を持ってしかるべき機関に提供できれば、我々と同じくあるいは我々よりも零細な林業界にとっては、相当の有価価値がある、と思います。それをもとにくまなく踏査して作ったO-MAPにも同様に価値は認め得ると思います。ただ、今の我々のやりたい事だけでは利害関係は一致しないでしょう。

Q：今の我々の活動にプラスアルファし得るなら、どこまで何が出来、それは何をもたらし得るか？

A：GPS関連で言うなら、データを取る時、境界杭等の位置を(それが地図作成には不要なほど多くても)すべて(杭の属性ごと)取得する・植生界として取るに至らないレベルでも林相の違いを細かくラインとしてとらえる、等が出来れば相当地元林業に貢献できます。またもっと直接的な場合として、トレイン(候補)内で間伐が行われた場合、間伐作業そのものを手伝う・代行することはほとんど不可能ですが、施工後の現地に於いて、伐倒木の

枝払い・集積作業を、部分的でも(正しく)施工することにお手伝いできれば、(と言うのはちょっと前まではそれから片付け作業までも間伐作業の一環として補助金が出てましたが、ここ最近はそんな金が無くなり、間伐と言えど切って倒すまで、しか補助無しになっているのです)林業、というより山主さんの満足に貢献することが出来るでしょう。そういう貢献をする事により、私たちは「名も知らない何をするかわからん都会の奴ら＝不特定多数」でなく、名前も顔もある特定多数になりえますし、双方にメリットが生まれる関係が期待できます。私見を言えば、その関係を築いていかないと、双方に将来はないでしょう。

+++++以上で引用終了+++++

この意見は、現状では突拍子もないもののように聞こえるかもしれませんが、私は今回のGPS調査で境界杭や植林への印等を目の当たりに見て、同様のことを感じました。そしてクレーム申立人のような方に理解を深めていただくためにも、本格的な林業の手伝いは無理にしても、林業でも活用できる地図であることのPRや身体をはったお手伝いは、時間がかかっても必ずや好感をもたれることになるのではないかと感じました。それこそ山川氏がいつておられた「30年もお付き合いができれば、いろいろな繋がりができる」ということに通じていくものなのでしょう。この玉木提言にも実際にはいろいろな課題が横たわっていると思われませんが、前進するための1つの方策として記載しておきたいと思います。

2 今大会からみたその他の提言

(1) 組織の変則性と情報伝達特にメール活用の注意点

プログラム挨拶にも記載しましたように、この大会は地域クラブ+学生OB・OG有志が実行委員会を形成し、もともと予定されていた地域クラブの大会に共催という形での開催となったことをぜひ覚えておいていただきたいと思います。当初、地域クラブと有志という構成要員の違いから「遠慮」という壁が双方に横たわっていたようです。インカレは学生日本一を決める祭典であり、演出やこれまでの継続事項その他で公認大会とは扱いが違う面が多々あり、それを双方でどのように調整しつつ進めたらよいのかわからなかった面がいろいろ存在しました。大阪OLC側でもっとリーダーシップをとってアドバイス、意思疎通が図られたら良かったと思うのですが、インカレという伝統に対する重みは、創成期のインカレを経験している者が委員会に存在しても感じないわけにはいかず、手探りの出発となりました。

当初大阪OLC側としては東海学連・関西学連を合わせて10名程度のOB・OG役員を日本学連にお願いしていましたが、東海学連地区からは春インカレの準備が忙しくとても人数を出せないとのこと、関西学連側も中心となってくれる人が呼びかけても、OB・OG役員はなかなか集まりませんでした。そのため実行委員会のキックオフが不

明確なままの準備突入となり、学生OB・OG役員の不安をもたれた方が専用の別系統のMLを作成されるに至りました。その結果、情報の多重伝達による混乱が心配もされましたが、その後調整がうまく図られ、チーフML、役員全体ML、OB・OG用MLという3本のMLが存在したにもかかわらず、これらの運用から心配された情報の混同等は最小限に抑えられました。しかしながら、同じ情報が確認を兼ねているとはいえ3本のMLに同時に流れ、そのためMLに流れる情報量が必要以上に膨大になった点は、反省すべき点の1つといえます。

IOFやJOAのコントローラ講習では伝達の最重要点として、「mail is most important tool」と教えられます。メールは確かに証拠が残るとともに、複数人に対する同時情報確認や会合をしなくても情報が共有できるなどの優れた点があるのですが、反面、情報が多くなりすぎ、スタッフが処理しきれないほどの情報量が流れてしまうこともあったりし（そのため、メールをみるのが億劫になる⇒情報の見落とし⇒対応の漏れという悪循環に陥る場面も出たことがありました）、またタイムラグによる時間の無駄が発生したりしました。そしてメールの活用において最も気をつけなければならない点は、日本語表現の難しさからくる誤解、勘違い等でしょう。やはり時間は確保しにくくメンバーが揃にくい面がありますが、基本は会合を重ね、顔を突き合わせた情報の伝達・議論を行いながら、メールでそれを確認しつつ進めるオーソドックスなスタイルで準備をこつこつ進めていくのが、望ましいと感じました。

(2) 準備組織の最大の敵＝「音信不通！」

① 調査における音信不通

今回の地図調査には定評のある何人かの外部調査者をお願いしました。特に静岡の方につきましては大阪OLCも以前地図調査を依頼しております実績がありますし、一度旧MAPをみてから可否の判断をしていただいたことでもありましたので、全幅の信頼のもと、2月末から集中的に調査していただきました。しかしながら地形はこの方を持ってしても思いのほか難物であったようで、また天候に恵まれなかったこともあり結局当初予定の調査期間では終了しきれませんでした。そのため引き続き5月の連休後の調査を再度お願いしましたところ、快諾してくださいましたので安心しておりました。ところが進捗状況を定期的にお伺いするのですが、2月にはなかったことなのですが、音信不通となってしまいました。とうとう試走が予定されている7月を迎えました。こうなっては緊急事態ですので、やむを得ず奥様を通じ連絡をお願いしたところ、5月以降は病気のため調査にまったく入っていないことが判明。奥様もご主人が当方からの調査を受けていたことをご存じなく、この連絡ではじめて、ことの重大性を認識され、ひたすら謝られる始末。当方も一瞬、真っ暗になりました。この緊急事態にクラブ員・調査者が奮起してくださり、何とか地図完成の目処は立ちましたが、7月の試走には当然間に合うはずもなく、試走は旧MAPと部分完成している新MAPを合体させた変則MAPでなければならず、貴重な試走データを蓄積することができませんでした。結局この方ご本人からの連絡は現在でもまったく取れないままです。

O-MAPの質的向上が図られるのはよいことですが、地形表現、OCADの使用等専門化してしまい、精度の高い地図はもはや職人の領域になってきています。そのような状況下、たとえ過小であっても報酬を取ってまで取り組んでいるのですから、常識的に考え、状況の連絡ぐらいいはして欲しかったです。前述のように未だにご本人からの謝罪はまったくありません。そしてこの方が自分の居住地の近くのレースをオーガナイズされているには、あきれ返って開いた口がふさがりません。後でわかるのですが、この方は前にもこのような状態になったらしいということでした。難しい面がありますが、その情報が正しく公開されていれば、また当方の情報アンテナがキャッチできていればと思うと非常に残念です。いずれにしても、この方にインカレをはじめとする大切な大会の調査を今後依頼することはお勧めできないことを、事実にもとづき記録に残すとともに提言いたします。

② 幹部役員の音信不通

当初この方は元関西学連幹事長の経験を活かし、大阪OLCとOB・OG役員を結ぶ重要性を認識され、積極的になっておられたのですが、ある時期からまったく音信不通になり非常に心配しておりました。その後1度は連絡が取れ、思っていたよりOL以外の生活が忙しく迷惑を掛けてしまったということで、連絡徹底の再確認がなされたのですが、再度音信不通になり、挙句の果てには、大会約1ヶ月前になって、メールによる一方的な実行委員会からの離脱宣言。この行動の非常識さには参ってしまいました。

この方は地元店舗や花屋さんの出店、プログラム広告の獲得にも深くかかわっておられたので、引継ぎも連絡先の明示もなく急に離脱されても、当方としてもすぐに打つ手が出てきません。予想されたとおり、その方が既にアプローチしていた関係者から、連絡がないのをいぶかって大会全体の問合せ先まで電話があり、当方が頭を下げることにより何とかことを収めたこともありました。こういったことはごく一部の学生オリエンティア卒業生たちに限ったこととは思いますが、社会に出てもこのようなことをもし続けるのなら、その行為は、他のまじめな学生出身オリエンティアがあらぬ誤解を受け迷惑を被るだけでなく、OL全体の社会的信用の失墜が懸念されることが残念です。

(3) GPS調査について

今回は京都府OL協会のGPS機をお借りしましたが、北側斜面は、樹木が高木であったり、沢が深かったりし、なかなかポイントを取得できず、半ばあきらめておりましたが、作図者の「時間を掛けてでも取得するんだ」という強い意思表示を受け、頑張りましたところ、ポイントが取得できる時間帯とまったく反応できない時間帯があるのがわかりました。また反応のない時間帯でもモニター上には複数の衛星が確認されていたり、逆に衛星反応表示がないにもかかわらずポイント取得ができたりと、いまいちコツをつかみきれないうちに終了してしまいました。ということで入る時間帯になれば沢筋でも、結構ポイントが取得でき、取得可能時間帯にはこのチャンスを活かせとばかりに、既

にずらずテープで現地に印をしてあるところを走り回り数多くのGPSポイントを確保しました。GPSポイント取得は、一度だめでもあきらめてはいけないということを、今後のみなさまの参考にお伝えしておきます。

(4) 演出関係

今回、大阪OLC側ではもともと公認大会用組織でしたので、インカレの目玉である演出関係まで手が回らず一番気になっていたところでしたが、この方面は西村さん(2011春インカレの中心人物)が学生OB・OG役員をまとめられ準備が進められました。インカレ独特の要素がここにあります。

メイン会場と最大の盛り上がり箇所であるフィニッシュとが一致していることがインカレの場合特に望ましいのは百も承知しているのですが、実際に存在する地下通路の通行も含め、いろいろ研究しましたが、結果的には大量交通路を横断もしくは、通行しなければならないことから派生する、OL競技が原因となつての渋滞そして安全性の確保の点がどうしてもクリアできず、残念ながら離れてしまうこととなりました。その代わり情報をリアルに会場に飛ばすことに西村氏が執念をみせられ、また的場氏の強力なる助力も得て、リアルタイムの速報大型画面表示とフィニッシュでの実況インタビュー、そして静止画像ではありましたが、テレビ内コントロールでの競技風景が表示可能となりました。そのかわり個人が競技終了後持って帰るのをたのしみにしている成績ボードは今回は見送りとなりました。当初計画どおりこれらの情報が会場でリアルタイム動画で提供できていれば、もっとすばらしいものになったのは間違いありません。電波状態、予算を考えると残念ながら今回はあの状態が限界でしたが、次のステップアップへの期待は高まります。

(5) 作図者からの提言(箇条書き)

① 作図関係

- i 調査者が作図し、試走用地図の印刷まで行うのは結構負担である。
- ii 運営用作図はOCADの普及により分散のできるので、それをできる人を要請できれば、直前までの修整や、作業の分散ができて作業がかなり効率化できる。
- iii 色設定は、OCADの茶色にすこし黒を加えるだけで済んだ。
- iv 新規作図の場合は、JOA地図委員会作成のJ S O Mの記号セットを必ず使うこと。
- v コース作図もJ S C D記号セットが必須

② 競技責任者から見たコースプランニング関係

- i ロングの大会が少なくなっているのも、データ集めを日頃からしておくことが必要。
- ii おもな大会のコース距離は手に入れておく。(全コン図でOK)

3 将来への提言

(1) 山川後を考えよう

インカレロング選手権クラスの再開催が決定したとのことですね。大変な議論の末であったと聞き及んでいます。

非常に重要な決断であったと思います。しかし批判を承知で、今回の決定内容に関係なくまったくの別項目としてインカレの存続を念頭にその中身的なものにあえて提言を申し上げたいと思います。それはその再開催もまた山川氏に頼っているということです。周知のごとく、インカレと山川氏は切っても切れない歴史を30年以上に亘って刻んでいます。しかしその山川氏も52歳。還暦が見えてきた年代です。インカレ運営の中枢を経験した方ならお分かりと思いますが、インカレ運営には莫大な独特のエネルギーが必要です。それを極端な言い方をすれば、少なくともここ数年は、サポート者はあるものの地図作成から運営全般まで山川氏が中心的に1人で背負ってきたということです。しかも山川氏はその間にクラブカップをはじめ地道な地方での地図作成等々をおこなつてのインカレ開催運営です。

ご承知のように山川氏は大きな持病を持っておられます。2日に1回は透析を受けられており、その合間を縫つてのOL活動です。普通の人にはとてもできません。何度も山川氏自身が述べられているようにそのエネルギー源は、インカレへの情熱・愛情があるからこそなのです。これはみんなが実はわかっていることで、わかっていないことなのかもしれません。山川氏が携われなくなったとき、インカレをどうして行くのか?あるいは山川氏の熱意が冷めてしまうような方向になってしまったときどうするのか?早急に考えるべき時が現実に来ていると思えます。場合によっては、インカレ存続のため、山川氏と考えが合わない形、新しい価値観でのインカレ像が打ち出されることが結果的に起こるかもしれません。しかしそれを恐れては、山川氏後のインカレが存在し得ないと思います。わかりやすく言えば、これはインカレだけでなくOL全体の問題でもあるのですが、現在は腕の立つ職人さんがいなくなれば、それで終わりの状態ですね。(もちろんこういったことについては何度も熟慮されていると思いますが、今回あえて、日本学連とは異なる組織が中心となってインカレを運営させていただいたことを通じ感じた感想・提言であり少しでも今後のお役に立てばと思う一心で書いておりますことをご理解願います)

4 現実的な対応処方箋

以下今後の参考の一助としていただきたく、今回の実行委員会における主な問題点を踏まえ将来へ向けての処方箋を記します。

(1) 調査能力の限界とその克服

調査能力は訓練すれば、あるいは問題意識をもって経験を積み、かなり向上するものと思われます。2010年7月をもって残念ながら活動を終えてしまった関西地図製作所が以前開催したセミナーで、山川氏が調査した地図を山川氏自身がリメイクしても、その表現は変化しており明らかに進歩しているのが良くわかりました。そのときの講師は、その差は経験から来ると述べていました。

では競技に関係する地図の質的維持をはかるため(特にインカレでは非常にこの点が重要視されている)、今回も3次調査は山川氏に調査していただくというのが日本学連からだされた条件でしたが、ここで前述「山川頼み」の問題

が出てくるのです。現実的に現在のインカレに求められる地図精度を維持しようとすれば、天才的な人を除いて、毎日テレインに調査に入りその技量を磨いている人でないと無理なのが現状ではないでしょうか？

今回、関西地区でその領域をめざそうという人が誕生したので、このインカレ地図はその人にも調査依頼をおこないました。結果は上々であったと思います。しかしこの話、突き詰めれば、インカレの地図は報酬を受け取るという意味でプロあるいはセミプロの調査者に調査を依頼しない限り無理ということに行き着いてしまうのではないのでしょうか？

そこで提言となるのですが、たとえばJ O Aには地図委員会があるので、それらと連携させたり、あるいは日本学連自身が調査・作図技術の向上を目指すメンバーを養成してストックする部局を設置していくことはいかがでしょうか？実現までには、いろいろな紆余曲折を経由しなければならいでしょうし、激しい議論も必要になると思いますが、要はそういったことに世話を焼く人が存在すれば可能と考えます。もちろんストックされるそのメンバーは、プロもいればそのときに雇われるいわゆるセミプロもいるし、それらをめざす人々や、競技もこなすランナーもいる。それらをJ O Aと共同で、あるいは日本学連単独で抱えておき、必要に応じプロジェクトチームみたいに「●●年度インカレ地図作成プロジェクトチーム」を結成、実行委員会に取り込んでしまうというのはどうでしょう。ただし、これが機能するためには、しっかりとした事務方の存在が不可欠と思われますが、それが作れるかどうかが最大の問題となるでしょう。しかしできれば、日本学連のOL全体の発展を見込んだ対外事業として、人材の学連外への提供派遣は、そのメンバーの技術向上にも役立つし、そこから得られる事業収入は日本学連の活動資金獲得のために役立つものになると思われますが、いかがなものでしょうか？

しかしまた現実の別問題も発生してくるかもしれません。私が提唱する組織に参画する人々は今までの場合、地域クラブに所属していたりするので、その活動との兼ね合いも考慮が必要になってくると考えられます。地域クラブ自身が、その構成委員を奪われると危惧する側面もあるかもしれませんね。

(2) 仕事、所属クラブ行事との両立(含む、転勤、異動等)・・・問題提起

皆様もお悩みになったことがあると思いますが、最も厄介なのがこの仕事との両立です。当初はできていても転勤、異動で取り巻く環境が変わりOLどころではなくなる場合があります。人数の少ない組織では、致命傷の痛手です。会社組織で貴重な戦力となっておられる方は、実行委員会でも相当な戦力となられている方が多く、両者の重複は宿命的なものです。そして家庭も問題もあります。OLに理解あると思われるオリエンティア同士の結婚においても子供さんの育児の問題は切実な問題であり、実行委員会準備作業とのバッティングは、家庭崩壊にまで発展しかねないのが現状のようです。この問題も後述する実行委員会予備軍登録制度をうまく機能させれば、このひとはどの程度までお手伝いできるのか？どの程度まで準備の仕事を依頼

できるのか？が事前にわかれば、悲劇的な問題は減少すると思います。現状では、この種の情報を実行委員会を立ち上げた中心人物がメンバー集めと同時にはじめねばならなくなっており、これが実行委員会のスタートダッシュの妨げとなり、最終的には実行委員会の効率的な行動の阻害要因の一部となっています。それをすこしでも軽くできれば、もっと楽に実行委員会を機能させることが可能になると思います。

(3) 実行委員会組織構成力と組織で動いているという自覚の問題

実行委員会自体もその組織力の低下が問題になってきているようです。実行委員会自体の理想形をあえていうなら、それは作業班と管理班の分離とでもいえるでしょうか？作業班とはおもに地図調査、作図、コースプラン、競技運営といった実働部隊で、管理班とは、実行委員会内における人事、パート間境界管理、要項・プログラム作成、作業進捗状況管理、備品管理等々のいわゆる事務方です。人的財産に余裕のないことはわかりますが、実行委員長、競技・運営の各責任者のほかにこれまでもたびたび設置されていますが、競技運営責任者、人事責任者、渉外責任者を必要に応じ別途設置するのが理想でしょう。しかし実際にはこれらの人々を別個に独立してそろえられるような状態になっていないのが現実であり、そのために起こる兼務による仕事量の増大が、作業パンク、運営ミスにつながっていくといえます。しかしながら、最高の舞台装置を提供するには多少の無理をしてでも良いスタッフをそろえる努力は必要でしょう。

これらの機能が短時間に最も機能しなければならないのが、実は表彰式終了後から会場撤収までの時間帯なのです。特に秋開催のインカレロングは、日没との時間的な戦いを絶対に考慮しなければなりません。会場撤収、コントロール撤収、出先パートの撤収、各種借り物の手入れと返却、会場そのものの清掃、ごみの始末、役員への全コントロール図の配布、余った諸物の始末、忘れ物対応、そして未帰還者への対応等々、これらを約2時間以内に済ませない真っ暗闇の中での作業といったようにとんでもない事態になります。

あるインカレでは、備品返却作業や会場清掃作業がバラバラで、ただただあとかたづけが永遠に続き、作業途中で手のあいている役員が増えたため、そういった役員だけを集めて中締めまでする始末、「それも含めて楽しむのがインカレさ」と思っているのであれば、それは大間違いであると訴えたいと思います。インカレはその要素が生まれるのは否めないですが、同窓会ではありません。また恩返しの場合でもありません。恩返しをしたいのなら、まず自分たちのクラブを立て直すことが先決でしょう。

(4) 理想的な実行委員会の組織へ向けて(案)＝「実行委員ストック制度」

これまで述べてきた問題を将来にわたって解決すべく「実行委員ストック制度」というアイデアはいかがでしょうか？

実際に運用するときにはもっとかっこいいネーミングが必要と思われますが、また反発が出るのは当然のこととし

て述べますが、一口で言うならば、学連登録加盟員は、卒業後は、自動的にインカレ実行委員会に継続登録される（継続登録を希望しないものは、状況を見て除外しても良いかもしれないし、卒業後5年間は強制登録でもよいかもしれない。方法はいくらかでもあるということです。）。そしてその中身は本人希望に応じ、地図調査・作成、実行委員会中枢、パートチーフ、役員A（試走等、当日以外の準備に積極的に協力できる。あるいはしたいと考えている）役員B（競技的な手伝いは無理だが、事務処理関係ならお手伝いできる）役員C（当日のみのお手伝い）といったようにそれぞれのインカレへの取り組み方の希望に応じた内容で登録され、それがインカレ実行委員会常備予備軍となり、必要に応じ、たとえば開催地域ごとに登録データに基づき●●年度インカレ実行委員会を組織する。これなら（現在でも形式的な引継ぎ式は存在するが）年間を通じ、そして途切れることなく実行委員会を組織、存在させることができるのではないのでしょうか。つまり2001.3.1総会資料で配布されたテレインコントロールワーキンググループの当時の座長、大井和之氏が報告された実行委員会の常設化が実現できるのではないかと思います。（この常設化に類する提案は、すでに88年インカレ報告書でも散見することができるぐらい古いものです）。しかしこの方法にもいくつかの克服すべき課題があります。誰がそのインカレ実行委員会常備予備軍の管理をし、必要に応じて組織するのか？まさしく実態のある実行委員を立ち上げるための音頭とりが必要であり、またそれをうまく機能させるには中期的に2～3年後までのインカレ開催地が常に決定していることが必要であるということです。逆にインカレ開催ビジョンがしっかりしていれば、この組織の運用もうまくいく可能性が大きくなりますし、このビジョンこそが、今後ますます時間をとられるであろうテレインの渉外活動について、時間をかけて行うことを可能とすることにつながっていくのではないかと思います。そんなことをしても、学生OB・OGの多い関東地区に集中してしまい機能しないのではない

かとの懸念をもたれるかもしれませんが、実際には卒業して社会人になった場合、結構全国各地に分散しているようですし、遠方の登録者で組織する場合には、相当額蓄積されている日本学連会計を有効に使用されてはいいかでしょう。（日本学連の資産が明確な目的のもと蓄積されているのであれば、この部分はご容赦ください）学生オリエンティアの中では、競技だけでなく、運営に興味を持っておられる方、地図作成に従事してみたい方、またインカレのような晴れの舞台で、楽しめるような演出をしてみたいと夢見ておられる方等々、いろいろいらっしやると思います。そういった方々の夢の実現とインカレの継続をうまく結びつけることができれば、このアイデアもまんざらではないと思うのは手前味噌でしょうか。

もちろん、卒業と同時に登録は御免こうむるという学生の存在が増加しつづけるのであれば、それはそれで悲しいかな滅亡への道を確実に歩んでいることを意味するのでしょうか。しかし今年度関西で積極的に展開された学生クラブ員、学生OB、地域クラブが一体となって展開した新人学生の獲得、定着支援のような動きがある限り、継続しないと効果はきたいできないものの、継続する意思と行動が続く限り必ずや滅亡の危機から脱するものと私は考えます。

(5) 提言一言集、まとめ

- ① インカレ開催について長期的ビジョンを地道に考えていくこと
- ② 卒業後は、何らかの形でインカレに携われる機会・制度を構築すること
- ③ 学生は、日本学連加盟員の自覚を持つとともに、自分たち以外の人間との信頼関係をもっと認識すること、相手は自分たちが思っている以上にあなたたちとの人間関係を重要視しているという認識を持つこと。
- ④ そのため、意思の疎通（報告・連絡・相談）の基本を大切にすること。

インカレロング2010再競技のお知らせ

2010年12月13日 日本学連幹事長 斎藤 翔太

先の奈良での2010年度インカレロング男女選手権クラスの不成立に従って、本年度のインカレロング選手権者および入賞者、さらに来年度の選手権クラスの枠配分が決定していることなどを勘案した上で、今回に関してはそれに対するインカレロング再競技案が存在し、その案がインカレロングとして開催するに足ると判断したため、日本学連幹事会ではインカレロングの再競技開催を決定しました。

日 程：2011年2月5日（土）

場 所：日光地区（栃木県）

開催クラス：男子選手権クラス・女子選手権クラス

2010年度日本学生オリエンテーリング選手権 ロングディスタンス部門 報告書

2010年12月30日発行

発行所 日本学生オリエンテーリング連盟

〒112-0014 東京都文京区関口3-18-2目白台芙蓉ハイム104

TEL/FAX 050-2012-4825

ウェブサイト <http://www.orienteering.com/~uofj/>

発行責任者 2010年度日本学生オリエンテーリング選手権大会 ロングディスタンス部門実行委員会

実行委員長 野澤建央

編集・製作 大阪オリエンテーリングクラブ